

# インドネシアのリンパ系フィラリア症制圧を 現地の医学部生と共に目指す

Case.01

特定非営利活動法人アイセック・ジャパン 慶應湘南藤沢委員会

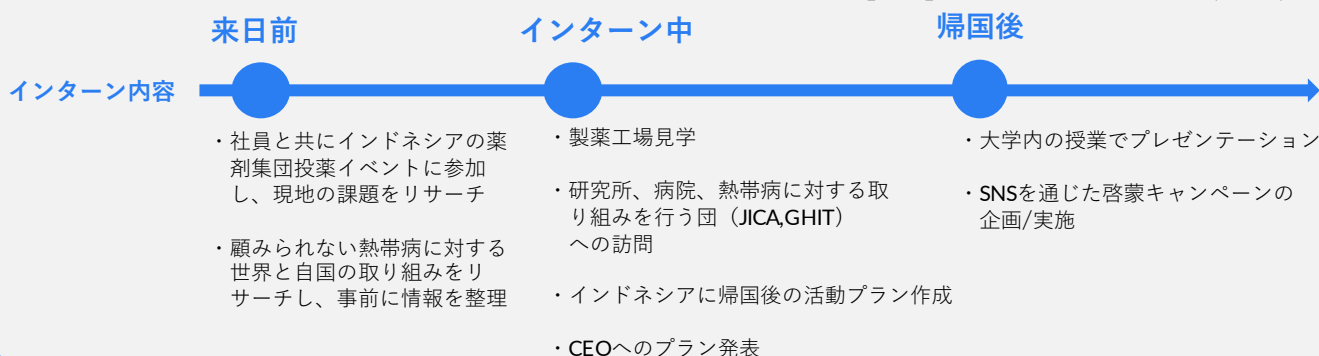
## 基本情報

インターンシップ  
テーマ



SDGs#3  
GOOD HEALTH AND WELL-BEING  
すべての人に健康と福祉を

【期間】2016年1月～2016年2月（6週間）



## 受け入れ企業様の声

### ■ LF制圧支援に、蔓延国の医学部生の視点を。

▶そもそも、海外インターン生の受け入れを決めた理由はなんですか？

当社は2013年より、自社製のLF（リンパ系フィラリア症）治療薬「DEC錠」のWHOへの無償提供を開始しています。LFとは、NTDs（顧みられない熱帯病(Neglected Tropical Diseases)）の一つであり、東南アジアを中心に世界で1億2千万人以上の人々が感染し約14億人が感染リスクにさらされています。DEC錠のWHOへの供給と共に、LF制圧支援のためのhhc活動(\*)として、蔓延国インドネシアの医学部生の視点から広く社会に広め、学生のLF制圧プログラムへの積極的な活動参加を推進したいと考え、受け入れを決めました。

▶実際にインターン生を受け入れてみて、社内外に何か変化はありましたか？

社内外で、当社のLF制圧の取り組みに対する認知度が向上すると共に、LF制圧活動への理解や協力がさらに高まりました。

来日前のプレインターンとしてインドネシアで実施したDECマネージャー会議やDEC錠のMDAで現地社員と交流を深めたことで、インドネシア現地法人におけるLF制圧活動がさらに活発化しました。

※hhc活動

（企業理念human health careの実現のため、グローバルに全社員が自分の業務時間の1%を患者様とともに過ごし、患者様の気持ちを知るための様々な交流活動を通じて得た体験やノウハウなど、個人レベルにとどまっている知識を組織で共有し、そこから新たなコンセプトを作り、イノベーションにつなげていく活動）

社内でもLF制圧活動に対する認知度が向上し、組織間のネットワークが広がりました。また、社員のインドネシアやイスラム教文化に対する理解も深まりました。

### ■ 情熱を持って取り組めるインターン生を選定。

▶アイセックのサポートはいかがでしたか？

契約時のインターンの制度や契約プロセスに関する十分な説明があり、LF制圧に向けて情熱をもって取り組める候補生の選定に関し現地との交渉も丁寧にしていただけました。また、インターンシップ開始前のインターン計画策定時に、タイムリーにフォローして頂き、インターン実施前後に生じた様々な課題にも臨機応変に対応して頂きました。



受入企業

社名	エーザイ株式会社
業種	医薬品の研究開発、製造、販売および輸出
設立	1941年
規模	個別：3,246人 連結：10,452人 (2017年3月末現在)
受入部署	知創部

## ■ 明確な目的があれば、双方にとって大変有意義。

### ▶ 受け入れをご検討いただいている企業様へのメッセージ

インターンシップ受け入れ前は、実施後どのような展開が生まれるかは未知数でしたが、結果としては大変有意義でした。インターン生は帰国後、医学部の仲間にインターンシップの経験を共有する場を作り、LFに関する疾患啓発動画を紹介。LF制圧プログラムへの積極的な活動参加を呼びかけてくれました。インターンシップを通して、異文化交流が進んだことはもちろん、社員からも、学生を交えて共に社会課題に関して意見交換できたことは非常に良かったとの感想を聞いています。

受け入れに際して、業務と諸準備の両立や社内外組織の調整で大変な面もありますが、明確な目的を持って受け入れれば学生と企業の双方に想像を超えた有意義な学びの機会を生み、その波及効果は将来に渡って大きく広がっていくことが期待されます。



インドネシア・ボゴール工場での  
リンパ系フィラリア症患者様との交流の様子



GHIT財団で国際保健分野の官民パートナーシップの  
取り組みを学ぶ様子

## インターン生の声

### ▶ インターンシップへの参加を考えたきっかけはなんでしたか？

新しい経験を積んだり、新しい環境に身を置いてチャレンジすることで、知識やネットワークを広げレベルアップしたいなと思ったからです。

### ▶ 実際にインターンを終えて、サニアさんにはどんな変化がありましたか？

人に対して寛容になるという意味での「ダイバーシティ」を学びました。また、お金では買えない貴重な経験をし、自分自身の視野が大きく広がりました。



インターン生

名前	Sania Rifa Zaharadinaさん
出身国	インドネシア
出身大学	Gadjah Mada大学
専攻	医学
語学スキル	英語、インドネシア語

## アイセック担当者の声

### ■ 企業様、インターン生、アイセック。三者にとって理想のインターンシップを実現。

#### ▶ どのような思いでこの海外インターンシッププログラムを作りましたか？

課題感が明確であったため、いかにして質の高いインターン生を獲得できるか、そしてインターン内容を詰めることができるかに注力しました。また、アイセック・ジャパンとして社会課題解決を目指すインターンに舵を切りはじめた時期だったため、その先行プログラムとなるよう責任感を持って開発・運営していました。

#### ▶ 実際にインターンが実現してみでの感想を教えてください。

エーザイ株式会社様の献身的な協力もあって、インターン生の選定の際や事前課題実施のタイミングからインターン生、エーザイ株式会社様、アイセックの三者で相互に協力し合いながら、三者にとって理想的なインターンを実現できたと思います。



アイセック担当者

名前	杉原裕斗
所属委員会	アイセック慶應湘南藤沢委員会
学年(当時)	2年



インターン生とアイセック担当者の空港での一枚

本資料は、2017年8月に作成しました。